理工学メディアセンターニュース

No.１０３　２００７．９

先月の入館者数
１０,３０１人

◇ ９月の開館時間 ◇

2007年9月

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						①
2	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
9	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
16	17	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒
23	24	㉕	26	27	28	29
30						

［カレンダーの見方］

通常開館
月～金：8：45～21：30 /土：8：45～20：00

短縮開館
月～金：8：45～19：00 /土：8：45～18：00

休館

＊来月以降の開館予定は次のウェブページでご覧いただけます。
http://www.scitech.lib.keio.ac.jp/calendar/calendar2007.html
＊塾内各地区メディアセンターの９月の開館日程は次のウェブページでご覧いただけます。
http://www.lib.keio.ac.jp/schedule/200709.pdf

目　次

お知らせ …… 2

夏季長期貸出資料の返却期限（予告）
本館洗面所改修工事
SciFinder Scholar 実習セミナー（上級編）

電子図書館サービス …… 2～4

電子ジャーナル活用ヒント（アラートサービス他）
Web of Knowledge 新バージョン
SciFinder Scholar 2007 の新機能
トライアルデータベース　Academic OneFile

雑誌の動き …… 5

コラム …… 5～6

新着図書紹介　『色彩工学入門－定量的な色の理解と活用－』
篠田博之・藤枝一郎著　森北出版刊　2007 年

著作権メモ　38　著作権者不明等の場合に著作物を利用するには？

お知らせ

夏季長期貸出資料の返却期限（予告）

夏季長期貸出の最終返却期限は、10 月 3 日（水）です。必ずこの返却期限日までに返却してください。期限を過ぎると 1 冊につき、1 日 10 円の延滞料がかかります。また、長期貸出資料は更新（返却期限の延長）ができません。
（他地区からの借用図書は所蔵地区の貸出規則に従います。）

本館洗面所改修工事

本館洗面所の改修工事を引き続き行っています（竣工日：9 月 20 日（木）予定）。
本館 1・2 階ともに洗面所は利用できません。創想館地下閲覧室あるいは館外の洗面所をご利用ください。

騒音等で利用者の皆様にはご迷惑をおかけ致しますが、ご了承くださいますようお願いいたします。

SciFinder Scholar 実習セミナー（上級編）

SciFinder Scholar の国内代理店「化学情報協会」より講師を招いて実習セミナーを開催します。各人がパソコンを操作しながらの実習形式です。各回とも上級者向け、同じ内容で、特に**構造検索、反応検索について詳しく解説**します。日頃使い慣れている方にとっても、正しい検索方法を習得し直すよい機会です。学部生、大学院生、教員、研究者、どなたでもご参加いただけます。（パソコンは用意いたします。）

研究室単位で参加者をとりまとめて、学年（身分）、お名前、希望の回を下記担当までお知らせください。個人でのお申込も可能です。先着順に受け付け、定員になり次第締め切りますので、お早めにお申し込みください。

日　時：　2007 年 9 月 26 日（水）
　　第 1 回　13：00－14：30（定員 15 名）
　　第 2 回　14：45－16：15（定員 15 名）
　※ 希望者多数の場合は 16：30－18：00 の回もご用意できます。
場　所：　セミナールーム 3（14 棟 2 階）
申込先：　理工学メディアセンター　レファレンス担当
　（E-mail: riko-mcref@adst.keio.ac.jp , 内線 40307）

電子図書館サービス

＊電子図書館サービスについてのご意見やご質問は、当センターレファレンス担当
（E-mail: riko-mcref@adst.keio.ac.jp , 内線 40307）までお問い合わせください。

電子ジャーナル活用ヒント（アラートサービス他）

当センターが提供する資料の中で、ますます重要性を増している電子ジャーナルをもっと活用していただくためのヒントをご紹介します。

電子ジャーナルには、各出版社や学会のサイトの中で個人登録をすることにより受けられる各種の便利な無料サービスがあります。内容や登録方法は出版社・学会によりそれぞれ異なりますが、例えば次のようなものです。（論文フルテキストの閲覧の可否は、慶應義塾大学と出版社の契約内容によるもので、この個人登録とは関係ありません。）

★ コンテンツアラート（Table of Contents Alert）
お好みの雑誌の最新号が電子ジャーナルで刊行される都度、目次情報がメールで配信されます。

★ サーチアラート
お気に入りの検索式を登録することで、その検索式にマッチする論文がアップされる都度、お知らせメールが届きます。

★ RSS feed
最新号の情報などが PC のデスクトップに直接届きます。

★ お気に入りの検索式や文献の保存

個人登録は無料です。（ただし Pay-per-view など、一部有料のサービスもありますのでご注意ください。）ご自身で登録の上、ご活用ください。

▼ 主な出版社・学会ごとの登録方法簡易マニュアルもご用意しています。
http://www.scitech.lib.keio.ac.jp/ejournal/alert_guide.html

Web of Knowledge 新バージョン

Web of Science, INSPEC, ISI Proceedings, MEDLINE を提供しているインターフェイス「Web of Knowledge」が来年より新バージョンに移行するのに先立ち、先行利用が開始されています。是非お試しの上、移行の準備をお奨めします。

新バージョンのご利用は、現バージョン画面上部の“ Access the new version! ”をクリックし、表示された案内画面で“ Launch the new version ”に進んでください。

主な改良点
・複数検索項目による Cross Search（Web of Knowledge 上のデータベースをまとめて横断検索）が容易
・Cross Search の検索結果の中では、Web of Science のデータを優先して表示
・検索結果の絞込みオプションを同じ画面上の左列に表示
・引用リンク（cited by）のうち、最新論文３編を画面上に具体的に表示　　など

▼ 詳しくは ISI 社のホームページで紹介しています。
http://www.thomsonscientific.jp/knowledgelink/newface/

SciFinder Scholar 2007 の新機能

化学系データベース「SciFinder Scholar」を研究室でご利用の方は、今年 7 月にリリースされた最新バージョンへのアップデート作業はお済みでしょうか。ここでは「SciFinder Scholar 2007」の新機能をご紹介します。さらに便利になった「SciFinder Scholar 2007」をどうぞご利用ください。

1. 文献の回答集合の解析(Categorize)
2. SciFinder 形式による回答集合の保存と呼び出し
3. 回答集合の演算
4. 物質レコードからの構造検索・反応検索機能
5. 物質レコードのグリッド形式による印刷
6. 試薬・化成品カタログデータの Excel フォーマット出力
7. 雑誌名による解析の強化
8. 製造の CAS ロール「PREP」の遡及付与
9. 物性値収録の強化

▼ 詳しくは化学情報協会作成の技術資料をご覧ください。
http://www.jaici.or.jp/sci/sfs2007_new.pdf

▼ 研究室でまだアップデート作業がお済みでない方はこちらをご覧ください。
http://www.scitech.lib.keio.ac.jp/sthc/SciFinder/setup.htm

トライアルデータベース　Academic OneFile

幅広い分野の学術雑誌約 10,000 タイトルを収録する記事索引（一部フルテキストも収録）データベースです。雑誌以外に新聞、オーディオ、百科事典等のコンテンツも収録されています。

・新聞コンテンツ
New York Times (1995-), Financial Times (1996-), London Times (1996-)
・オーディオ・コンテンツ
National Public Radio のラジオ放送, ホワイトハウス記者会見放送, NASA などのポッドキャスト, JAMA など医学雑誌のオーディオ版
・百科事典
Encyclopedia of World Biography, EIU Country Profiles, Gale Encyclopedia of Science, Gale Encyclopedia of Medicine, Gale Encyclopedia of Cancer　ほか

トライアル期間は 11 月末まで。当センターホームページ（http://www.scitech.lib.keio.ac.jp/）のトップメニュー「データベース」のトライアルデータベースから選ぶか、直接
http://infotrac.galegroup.com/itweb/jpkeiohi　にアクセスし、Academic OneFile を選んでください。

雑誌の動き

【新規】

・電子情報通信学会技術研究報告.AN.アドホックネットワーク

AN2007-1〜14(2007.5) -=Vol.107, no.29(2007.5) -

・電子情報通信学会技術研究報告.USN.ユビキタス・センサネットワーク

USN2007-1〜21(2007.5) -=Vol.107, no.53(2007.5) -

【誌名変更】

・電子情報サービス / 日本情報処理開発協会データベース振興センター

（前誌：データベース白書）　2007 -

・情報処理学会研究報告.HCI,ヒューマンコンピュータインタラクション研究会報告

（前誌：情報処理学会研究報告.HI,ヒューマンインタフェース研究会報告）

No.123(2007.5) -=Vol.2007, no.41(2007.5) -

・日本学術会議材料工学連合講演会講演論文集

（前誌：日本学術会議材料研究連合講演会講演論文集）　50 回(2006.12) -

【廃刊・休刊】

・Boundary：材料開発ジャーナル　-22 巻 12 号(2006.12)

コラム

新着図書紹介 『色彩工学入門－定量的な色の理解と活用－』

篠田博之・藤枝一郎著　森北出版刊　2007 年

色は時と場所によって変化します。買ってきた服の色が、店頭で見た時と家に持ち帰った時とで違って見えるという経験はないでしょうか。色は光によって運ばれた物理情報が、目というセンサにおいて信号に変換され、人の神経を伝搬して脳に至ることによって認識されますが、同時にさまざまな感情も引き起こしています。したがって、客観的な色の把握や判断をするためには、「色を数値で表現すること＝色の定量化」が不可欠になってきます。

理工系の技術者は色を取り扱う機会が多いものです。例えば、工業製品の色の品質管理は重要な課題です。また、ディスプレイやプリンタなどの画像出力装置、デジタルカメラやスキャナーなどのカラー画像入力装置では、対象物の元の色と出入力機器を通した情報に差異がないことが研究開発のテーマとなります。このように、色の物理特性、測定方法についての知識を得ることは、技術開発を進めていくうえでその理解を助けます。

本書は、心理と物理の両側面から色の不思議を解明し、色を定量化する手法や、それに関連したデバイスや機器の原理を取り上げて解説しています。さらに、数値化された色を体系的に取り扱う方法(表色系)など、実用的な色の理解を深めてくれます。イメージする色を正しく再現する方法や、色の再現性を保つ「色管理」を学ぶことができるでしょう。

（請求記号：425.7@S1@1　配架場所：本館 2F 一般図書）

著作権メモ　38　著作権者不明等の場合に著作物を利用するには？

他人の著作物をコピー、インターネット送信などの方法で利用するには、原則として著作権者の了解（著作権法ではこれを「許諾」という）を得ることが必要です（※）。

※これまでの著作権メモでご紹介してきた、「私的使用のための複製（著作権法第 30 条）」、「図書館等における複製（同第 31 条）」、「引用（同第 32 条）」等は、例外的に著作権者の「許諾」なしに著作物を利用することができる規定です。

しかし、「許諾」を得て利用する意思があるにもかかわらず、相当な努力を払っても著作権者（またはその相続人）が誰であるかわからない、連絡先がわからない、といった場合があります。このような場合は、文化庁長官の「裁定」を受け、文化庁長官が定める額の「補償金の供託」を行うことで、該当の著作物を適法に利用することができる制度が定められています（著作権法第 67 条）。

この制度の対象となる著作物は以下の通りです。

ア）著作権者の了解を得て既に公表されている著作物

イ）著作者の了解を得ているかどうか不明であるが、相当の期間にわたって世間に流布されている著作物

裁定申請書は文化庁著作権課にいつでも提出することができますが、著作権者と連絡することについて相当な努力を払ったと認められなければ、裁定が得られない場合もありますので注意する必要があります。詳細な手続きについては、以下の文化庁著作権課のページを参照してください。

＜参考資料＞

・著作権者不明等の場合の裁定制度.（オンライン），
入手先 <http://bushclover.nime.ac.jp/c-edu/index.html>，（参照 2007-08-28）

発行：慶應義塾大学理工学メディアセンター

E-mail： riko-mcinfo2@adst.keio.ac.jp

Home Page：http://www.scitech.lib.keio.ac.jp/

本誌の電子版のご利用はこちらから→ http://www.scitech.lib.keio.ac.jp/mcnews.html